



それいけ地域の

at h♡me 望幸隊！

～幸せ運ぶ防災食の開発と普及をめざして～

山口県立田布施農工高等学校 望幸隊

1 はじめに

私たちは、東日本大震災をきっかけに、地域の方と連携しながら防災食の開発に取り組んできました。平成30年の西日本豪雨災害時には復興ボランティアに参加し、同年10月に周防大島町（以下：島と略）にかかる唯一の橋に外国船が衝突した際も、すぐに現地へ向かいました。島は6割が75歳以上という高齢化地域で、うち9千世帯で断水が1ヶ月以上続き、臨時給水所が設置されたものの、水を運ぶ際に骨折してしまった高齢者もいて断水が大きな負担となり、疲労困憊していました。

その現状を目の当たりにし、これまで「防災」について研究を進めてきましたが、「みんなが幸せを望めるような、手助けをしたい。」と、メンバーで話し合い「望幸隊」を結成しました。私たちの目標は、災害時の不安を軽減できるような、防災食の開発と普及に取り組むことです。



周防大島町 炊き出しの様子（H30）

2 地域食材を活用した「望幸食」の開発

食生活調査をしている際、一人暮らしの方から「自分一人ではどうしていいのかわからないけど、人に頼むのを遠慮してしまう。」と涙を浮かべて相談され、胸が詰まりました。何かできないか聞いたところ「みんなで、温かい食べ物が食べたい。」とのリクエストを受けました。そこで、地域住民をつなげていけるような防災食、名付けて「望幸食」を開発することにしました。避難生活を体験された方から、「何気ない日常の生活がしたい。自分で火を使って料理を作りたい。」という要望もありました。そこで、島のおいしい水を使い、みんなで火を囲みながら調理していけるような「元気100倍☆島うどん！」を開発しました。

また、作る段階から皆さんに楽しんでほしいと考え、畑をまわって野菜を提供していただき、製麺体験にも参加していただきました。すると、「わしらで、ロケットストー



子ども食堂 集合写真（R2，7）

ブをこしらえよう」と、有志の方が廃材で火元を作ってくださいるなど、次々と地域の方が食事の用意に加わり、わくわくするような交流の場となりました。雪が降る中、炊き出しを行うと、「本当に、旨い。五臓六腑に染み渡る。君たちの姿を見ていると、わしらもがんばろうと、勇気が沸いてきたよ。」と大変喜んで頂くことができました。また、「情報交換しながら調理をすることで、力強い意識が高まった。」「わしらもしっかりしなきゃという思いになった。」という声もかけて頂き、「望幸食」が災害時の不安を軽減する他、地域住民をつなげる効果があることもわかりました。この経験をもとに、地元田布施町でも炊き出し訓練を実施したり、幼稚園で子どもでも簡単に調理できる「ペットボトルピザ」を開発して一緒に作ったり、様々な年齢を対象とした望幸食作り講習会を実施しました。このような地域と連携した防災活動が認められ、2019年にはアクサユネスコ協会減災教育プログラムの認定校に選ばれたり、第1回高校生農業アクション大賞で準大賞を獲得できたり、全国に活動を紹介することもできました。

3 With コロナと望幸活動

今年度に入り、防災訓練が次々と中止になる中「新型コロナウイルスによって、困っ



ハロウィンイベント（R2, 11）

ている子どもたちのために力になってほしい」と、地元の子ども食堂から相談を受けました。そこで、これまでの炊き出しの経験を活かし作りたてのピザを詰めた弁当の配食を実施しました。受け取りに来た子どもから「一人で留守番して寂しかった。温かい、想いのこもったごはんを食べたい」と話す子どもがいて、何とか笑顔になれるような企画をしたいと思います。そこで、保健所と連絡を密に取りコロナ対策を万全にした料理教室や、地域の商店街を巻き込んだハロウィンイベントも実施しました。「子どもが久しぶりに笑っていて、うれしかった。田布施農工があつて良かった」と、保護者の方からも喜んでもらえました。これからも、地域の一員として望幸活動に取り組んでいきます！



子ども食堂 ピザ作り教室（R2, 7）



執筆者（メンバー全員）写真